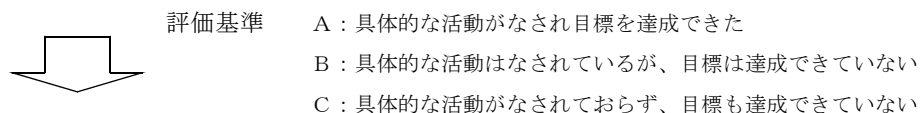
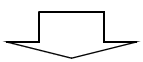


重点目標	コミュニティスクール等を活用した障害理解・啓発、生涯学習推進体制の構築	
現 状	・本校では地域貢献活動、販売活動、外部講師の活用、居住地校交流、学校間交流など様々な形で地域と関わっており、内容や回数も充実してきている。 ・地元テレビが取材にきて番組で取り上げられたり、学校展や販売会を駅や公共施設等、道の駅など様々な場所で行ったりしている。 ・作業製品をふるさと納税の返礼品として、全国発送している。 ・学校の教育活動に加えて、在学生の余暇活動や卒業生の生涯学習の充実を図るためにさらに地域を活用したいと考えている。	P
具体的な目標	学校運営協議会での熟議を通して学校や地域でできるアイデアや意見を出し合い、卒業後の充実した生涯学習につなげる方策を見出す。	
目標達成のための方策	・学校運営協議会で「障害者の生涯学習」について考える機会を設定する。 ・学校見学会や校内参観の希望を積極的に取り入れ、参観だけでなく、体験や講話などを通して障害理解を深める。	
取組状況	①学校運営協議会で「生涯学習」をテーマに取り上げ、卒業生などもメンバーに入れながら熟議を行った。 ②第3回目の学校運営協議会での熟議を受けて、さらに委員メンバーで「誰が」「何をする」のテーマで協議をした。 ③一般企業の関係者を対象に学校見学会を行い、作業学習体験、障害理解学習を行った。本荘、象潟地区の民生委員や看護学生も学校見学で来校し講義を行った。	
達成状況	①「障害者の生涯学習」について社会教育主事の講話や、様々な立場の意見を聞くことで、生涯学習についての課題を関係者で共有できた。 ②熟議をさらに深める場を設定したことで提案や意見だけで終わらず、自分ができることや誰が何をすればいいか具体的なことまで話し合うことができた。 ③関係者ではなく一般の方々に知っていただくことが大切であるという運営協議委員の意見を基に積極的に学校見学を進めた。	D

自己評価	(根拠)	C
(評価) B	・学校評価（職員）で「コミュニティ・スクールの活動を通した学校理解の一層の推進」や「共生社会の基盤づくり目指した障害理解学習の拡充」は「十分にできている」「ほぼできている」で100%となっており、職員の中でも手応えを感じている。 ・「地域の生涯学習団体等との連携による児童生徒の居場所づくり」については8.1%が不十分と答えており、今後熟議で出た意見やアイデアを実践していくことが課題である。	



学校関係者 評価と意見	・アンケートより「地域の方々や地元企業との交流が活発でその活動が就職に結びついていることを改めて感じた」「今後は各事業所同士の交流に向けて組織を作れたらと思った」「サービス利用提供者として卒業後の生活においてもっと貢献できるものがあるのではないかと思った」等の意見が出され、運営委員一人一人が自分事として考えるようになった。	C
(評価) A		



自己評価及び 学校関係者評価に基づいた 改善策	・熟議を踏まえてさらに協議を重ねたことで、運営協議会委員が自分のできることを具体的に想起するようになった。来年度は、在校生の活動（PTAレクリエーション）や卒業生の活動（同窓会）と併せて行うなど地域の場所や人の協力を得ながら、「生涯学習」として利用できるような場や機会の設定を実践していきたい。	A
-------------------------------	---	---